

- ・みのおサンプラザ1号館の再配置レイアウト及び機能について、パブリックコメントでは郷土資料館の地下1階への移設の是非をふまえて第1案・第2案の2つの案を提案、比較検討する形となった。
- ・この度パブリックコメントを実施したことで、市民の皆様からさまざまな意見を戴いた。これを計画に反映するため、以下の観点からレイアウト案を修正し、最終案を作成するものとする。

①地下1階に配置する機能、レイアウトについての方針

■郷土資料館移設に対する意見のまとめ … 移設には概ね「賛成」の意見。

	賛成意見	課題提案	反対意見
サンプラザへの移設について	・駅前是集客力、交通利便性が高く立地的に好機。現在地よりも人が立ち寄る確率が高いと思われる。 ・市民である自覚と興味が増すと思われる。 ・年間110万人の観光客を迎える街として、その姿を発信する施設が駅に近づくことは有効的である。	・駅前広場、サンプラザの外観改修等を含め、郷土資料館があることのメッセージを発信、誘導する必要がある。	・維持管理にかかる経費や防災の面で雑居ビルの地下に設置すべきでない。 ・教育機関、学術機関としてならば、他所に移設すべきである。
資料館のあり方について	・自然に魅かれる人は歴史にも関心を寄せる。「ふるさとを感じるまち」の具現化につながる。	・懐古型ではなく未来志向型の「箕面歴史館へと拡充すべき。 ・体験学習室を活かし、観光地とも連動した参加体験型の企画が必要。 ・学習スペースの確保。 ・文化財、国宝級の歴史財産の展示。 ・イベント・講座について、TMO、他団体と連携すべき。 ・資料館や運営に エンターテインメント性を持たせるべき。 ・サテライトにして映像を駆使する。	・現在の郷土資料館は教育施設として児童生徒に対する体験型施設としての効果は絶大だが、多少の改変では、集客施設としての転換は出来ない。これまでの教育的効果が無に帰す恐れがある。

■フリースペースに対する意見 … その利用形態や什器設備、運営管理については要検討であるが、市民活動の推進になくてはならないものであり、フリースペースに対する意見は概ね「是非必要」とある。

■意見に対する考察

郷土資料館については、現施設が老朽化していることもあり、立地条件や総合的な公共施設の配置から判断し、「箕面の玄関口」において、**より多くの市民・来街者の方が箕面の郷土文化に触れる機会を増やし、理解を深めていただくため**、サンプラザへ移設する方針で進める。

郷土資料館のあり方については、**併設するタウンインフォメーションスペースや市民ギャラリーと連携**することにより、様々な市民の活動やイベントの開催、情報発信を通じて、より一層効果的に歴史文化を次世代に継承することが可能になると考える。

また、**様々な市民の活動の場の提供においても、フリースペースを確保すべき**と考え、レイアウトを改案する。施設の維持管理等における課題については、今後の改修、運営の段階において、ハード・ソフト両面からの十分な検討と工夫を行う。

■最終案の方針

- ・郷土資料館を移設する案(第1案)を基本とし、タウンインフォメーションスペース・市民ギャラリー等との連携を視野に入れ、「郷土のすがた」を集約したフロアとしてレイアウトを構成する。
- ・郷土資料館の収蔵庫の面積を、展示品の入れ替えに対応した広さに留め、代わりにフリースペースの設置など、第2案で提示したコンセプト・レイアウトを盛り込む。

■修正の視点

- ① 地下1階に配置する機能、レイアウトについての方針
- ② コンセプトに基づく多世代交流拠点に必要な機能の追加

②コンセプトに基づく多世代交流拠点に必要な機能の追加

■パブリックコメントで出された要望 … 「地域の福祉活動拠点の設置」。

- ・市内に福祉施設は多くあれど、高齢者がいつでも自由に集まれる場所がない。
- ・サンプラザは立地条件もよく、高齢者、障害者が来やすい場所である。
- ・子育て支援センターに、親子と高齢者の相互交流機能が生まれてもよい。
- ・北小地区は高齢者が非常に多い。
- ・現在の北小地区のコミュニティセンターは山麓線下の不便な場所にある。
- ・北小地区福祉会の活動拠点を設置してほしい。
- ・福祉はお年寄りから赤ちゃんまで関わっている。
- ・福祉活動拠点の設置による、老若男女の往来は計り知れないと同時に、サンプラザへの地域市民の愛着を育てることになると思われる。

「多世代が集い、多目的に使える、駅前の集客と交流の拠点」という、本計画の全体コンセプトの観点からも、**多世代の市民の日常の交流の場として使える公共施設の配置**を検討する。

福祉活動拠点は、子どもとの多世代交流の観点から、これまで各小学校に設置してきているが、空き教室がないなどの問題から、全校区には配置されていない状況にある。今回の再配置計画において、**サンプラザ1号館3階を子育て・子ども活動支援拠点として**いることから、福祉活動拠点を設置することにより、子どもとの多世代交流を図ることができる。

■地域の人口特性から見た福祉活動拠点の設置の必要性

下の図表は、みのおサンプラザから半径0.5km圏（徒歩圏）及び、1km圏に含まれる町の人口（平成16年4月1日時点）を集計し、その特性を示したものである。

	人口総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
半径0.5km圏	4,448	460	2,974	1,014
半径0.5～1km圏	20,618	2,812	14,288	3,518
合計	25,066	3,272	17,262	4,532

(人)

(住民基本台帳 平成16年4月1日)

半径0.5km圏	…	箕面1～2・5～6丁目
半径0.5～1km圏	…	箕面3～4丁目 箕面公園 温泉町 桜1～2丁目 新稲1・3～4丁目 西小路1～5丁目 牧落1・3丁目 稲1丁目 坊島1～2丁目 如意谷1～2丁目

年少人口の割合	…	年少人口（0～14歳）の生産者人口（15～64歳）に対する割合
老年人口の割合	…	老年人口（65歳以上）の生産者人口に対する割合

中心市街地は箕面市の中でも高齢化が進展している地域であるが、みのおサンプラザから徒歩で利用できる範囲では特にその傾向が顕著であり、高齢者福祉施設の需要は今後一層高くなるものと予測される。

また、年少人口の割合の推移では、半径0.5～1km圏において近年、少子化に歯止めがかかっている傾向が出ている。これはこの地域にヤングファミリー層が比較的多いことを示しており、サンプラザは現在、子育て拠点、多世代交流の場としての需要の潜在力を持つ立地にあることが想定できる。

■最終案の方針

- ・3階「子育て・子ども活動のフロア」に高齢者福祉に資する地域活動拠点を設け、多世代交流の場としての機能を整備する。

